

資金の流れと社会的責任投資

慶應義塾大学 跡田直澄

1 資金の流れの問題点

- ・ 政府が配分を決める資金の多さ
郵貯 財投 財投機関 国債・地方債 公共投資
- ・ 公共投資の一部は民間で可能な社会的投資
歩道、街路、橋、学校、福祉施設など
- ・ 公私の役割分担における公の肥大化
営利民間は私のみ限定 私も社会的責任を回避

2 社会的責任と経済効果

- ・ 社会的責任投資・寄付の実施前後での
当該企業の利益変化：3～5年のスパンで評価（含む宣伝効果）
当該地域の経済活動への影響（売上、付加価値、税収増など）

3 社会的責任投資の活性化に向けて（強制ではなく導く）

- ・ 政府の規模を縮小すること
- ・ 社会的事業活動を行う民間主体を育成
社会的に責任ある活動の重要性を喧伝、コンサルする

4 政策の方向性

- ・ コミュニティ・ビジネス育成
人材育成、ファンド利用、規制緩和
- ・ ファンド設立支援
ファンド法制整備、拠出者への税制優遇

5 寄付

- ・ 日本の寄付の現状：GDPの0.12%（6000億円余）
注：政治献金やお布施を含む 参考：寄付の大口受け手の比較表
寄付市場の当面の目標はGDPの1%（5兆円）

社会的責任投資の当面の目標は??